

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年 5月 30日

事業所名: こどもサポート はるかぜ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		室内だけに限定しておらず、積極的に地域周辺を活用している	心地良い空間は、多様であるため活用できる資源を更に掘り起こしていきたい
	2 職員の配置数は適切である	○		加配人員を配置し、手厚い支援を目指している	より専門性を高められるよう、確かな支援を行えるよう目標を定めている
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		主フロアと畳間が併設されており、情報伝達よりも自然と行動できる空間を整えたい	過ごしやすさは個々によって違うため安全性や療育性を兼ねた空間作りを常に心がけたい
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		トイレ空間を改装し、広さや清潔さが向上した	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の振り返りや習慣目標を随時ミーティングを行っている	ミーティングの質向上には、個々のスキル向上が必須であるため各研修等も同時に行っている
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表のみだけでなく、日々の保護者とのコミュニケーションを心がけている	十分な意思疎通ができるよう、些細なことでも連携できる体制を構築していきたい
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPでは、プライバシーに配慮しつつ活動の様子等写真も公開しており、場の雰囲気や伝わるよう工夫を重ねている。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による評価は得ていないものの、必要に応じて対応を重ねていきたい
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		職員のやりがい向上のため、スキルアップは必須と考えており研修には力を入れている	福祉テーマにより研修も含めて、マネジメント・リーダーシップ等でもレベルアップをかを図っている
適切な支援	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		丁寧なヒアリングを心がけ、実態に沿った計画書作りを目標としている	専門用語を用いなくとも伝わりやすい、双方に納得できる計画書を常に心がけていきたい
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	できる・できないの観点だけでなく、優先順位を意識しているが現状はツールを活用できていない	評議を重ねる際には、標準化が必須であるか個々の支援員としてのスキルをすり合わせる必要がある
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		義務化になった5領域をさらに突き詰め、ご家族にとっての寄り添い場所を提供できよう研鑽を重ねている	目標とし移行支援も行えるよう支援員・事業所のレベルアップも図ってきたい。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		方針が明確化することで、計画書が活きてくるとかかんがえており実態に沿った支援を心がけている	児童を軸とした現状や個別目標をしっかりと理解・観察をしながら確かな支援を提供していきたい。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		曜日で担当を振り分けているも、チームで行う全体性を重要視している	ねらい、支援目標を言語化し誰にとっても心地よい活動を目指している

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
仮の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		児童の特性によってプログラムが違ってくるため、細かな工夫で集団性を保っているよう活動プログラムを考案している	プログラムの見える化を通して、より充実した時間ができるように研鑽を重ねていきたい
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		目的、ねらいを可能な限り言語化している	個別療育から集団療育はグレードアップが多岐になるため、十分な検証を行っていきたい
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		療育を充実したものにできるよう、常にミーティングを行っている	長期休暇では、ミーティングが少なくなるため支援員同士の十分な連携が取れるよう日々の積み重ねを心がけている
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		活動の良し悪しを満足感だけにしないよう、振り返り手法を用いて意見を共有している	些細なことでも共有し、紐解けるスキルを身に付けていきたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別に必ず記録を取り、十分なステップアップになれるよう根拠資料として活用している	支援員により捉え方、表現の違い等の制度を高めていきたい
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリング時には、資料を提供し日々の様子が分かるようにしている	事務的な流れにならず、きめ細かい共有をしていきたい
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		会議には相応のスキルを持ち合わせた人を割り当てている	態様な体制でふさわしい者と併せて参画を図っていきたい
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要時には保育園から情報を得ている	連携できる体制を常に心がけていきたい
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	ご利用無し	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	ご利用無し	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	ご利用無し	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	ご利用無し	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		特に事業所間のやり取りは重要視し互いの支援を共有している	発達センターとの専門機関とも今後は連携を図っていきたい
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		小学生を中心とした地域の自治会とは定期的に交流があるものの保育園等での交流は機会がほとんどない現状もある
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		町が率先して行っており、開催時には参加をしている	次年度からは正式に子ども部会が充足し、十分な情報交換及び連携を図っていきたい
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者との連携を重要視している	多様な家庭環境において、共通理解度は多岐に渡るため専門性がより求められており、現状に怠らずお子さまのサポートに日々寄り添っていきたい
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		申送りの際やTELなどでの相談が主なため、プログラムとして実施を図りより家族支援に繋げていきたい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		規定や制度を分かりやすく伝達できるよう、文言の背景をスタッフ研修に取り入れている	丁寧な説明と併せて今後は理解が容易になる説明資料も作成していきたい
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		内容説明に分かりやすい表現を心がけている	事業所の軸や児童そのご家族の意向をしっかりと反映できる計画書を作成できるよう常にスキルアップを図っていきたい
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		気兼ねなく悩み等を申し出れるよう、気になることは日々共有している	取りこぼしがないよう可能な限り、ご家族とのコミュニケーションを図りたい
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者同士の連携も図れるよう、多様な形でイベントを企画していきたい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		すぐにフィードバックができる連携を常に心がけている	初動を見誤らない、迅速な対応ができたかを精査できる仕組みを確実なものにしていきたい
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		HPを媒体を用いて情報発信を行っている	更新頻度が少なくアクセスする方は限定的であるため、多様な媒体を用いて連絡体制を築きたい
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報取り扱いにおいては、十分な配慮をしている	ヒューマンエラーが認められないため、十分なモラルを持って取り扱いを継続していきたい
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		スマホ・ボード・手話等で特性に応じた意思疎通を図っている	社会性と照らし合わせたツールの有効性を常に検証していきたい
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		数は少ないもののイベント企画を行っている	地域交流等は様々な連携が必須になるため今後は強化を図りたい	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		実態に沿ったマニュアルを整備している。	あるだけでなく、必要時に的確な行動がとれるよう改善を重ねていきたい
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		緊急事態発生は予測できないため、訓練は臨場感を持って取り組んでいる	先の津波警報では、実際は慌ててしまい想定した動きを十分にできなかったそれを踏まえた確かな行動は訓練の回数に直結すると認識できた
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		必要情報をスタッフが常に共有できる場所に掲示している	対応状況などを視覚化し、こぼれが無いようにしていきたい
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		必要情報をスタッフが常に共有できる場所に掲示している	アレルギー程度の個人差があるため、必要に応じた保護者連携を密に継続していきたい
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例を共有することで、細やかな支援に努めている	療育的安全性を確保しながら、自立ができる観点でヒヤリハット事例を活用していきたい
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		県や町でも研修機会を設けており、積極的に参加している	倫理規定と併せて十分な配慮を精査していきたい
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		個人の判断ではなく、組織として統一できるよう努めている	組織上の仕組み化により児童・保護者・支援者、双方が納得できる環境を更に整えていきたい

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。